

『優美な風貌』 ～ 日本の象徴の富士山 ～

2024 年 12 月 11 日は【『東久留米駅 → ひばりヶ丘駅 → 池袋駅 → 新宿駅 → 中野駅 → 新渡戸稲造記念センター → 中野駅 → 御茶ノ水駅 → 順天堂大学 → 本郷 3 丁目駅 → 池袋駅 → ひばりヶ丘駅』の旅】であった。車内から観る【『優美な風貌で、日本国外でも日本の象徴』として知られている日本最高峰の雪の富士山(3776.12m)】(画像)には心が慰められた。

癌研究会癌研究所での発がん研究(化学発がん) → Albert Einstein College of Medicine (ニューヨーク)での(ウイルス性肝がん)研究 → Fox Chase Cancer Center(フィラデルフィア)での(遺伝性腎がん)研究(画像) → 『がん哲学＝生物学＋人間学』の提唱 → 順天堂大学での(『環境発がん：アスベスト・中皮腫外来』&『がん哲学外来』) → そして、病院外での『陣営の外＝がん哲学外来』へと展開した。今朝、最先端の 2 つ英語論文の査読を依頼された。人生日々勉強である。

筆者は、『日本国のあるべき姿』として『日本肝臓論』を提案している。【肝臓は、異物に対しては寛容性をもつ。日本国も肝臓のような国になれば、世界から尊敬されるという趣旨である。人間の身体と臓器、組織、細胞の役割分担とお互いの非連続性の中の連続性、そして、障害時における全体的な『いたわり』の理解は、世界、国家、民族、人間の在り方への深い洞察へと誘うのであろう】。新渡戸稲造(1862-1933)は国際連盟事務次長時代に、『知的協力委員会』を構成し知的対話を行った。そのメンバー中には、当時の最高の頭脳を代表する物理学者の Albert Einstein(1879-1955)、Madame Curie(1867-1934)もいた。今こそ国際貢献として、『21 世紀の知的協力委員会』の再興の時であろう。

2024 年 12 月 13 日は、新渡戸稲造を師と敬愛する南原繁(1889-1974)の研究会(Zoom 方式・対面方式の会場 学士会館 303 号室)に出席する。筆者は、南原繁没後 30 年にあたる 2004 年にスタートした南原繁研究会の 3 代目の代表を仰せつかっている。今年(2024 年)は【南原繁研究会発足 20 周年、さらには南原繁没後 50 年】でもある。『人間として行為の継続の大切さ』を痛感する日々である。



Cancer Philosophy

Seeing Society from the Views of a Cancer Cell



Okio Hino, M.D., Ph.D.

